

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2880 号	氏名	古野 哲慎
審査担当者	主査	福本義弘	(印)
	副主査	深水 圭	(印)
	副主査	高須 修	(印)
主論文題目： A Safety and Efficacy Study of Tolvaptan Following Open Heart Surgery in 109 Cases (開心術後 109 例におけるトルバプタンの安全性と有効性の検討)			

審査結果の要旨 (意見)

開心術周術期における血行動態および体液量管理を目的として、トルバプタンの安全性と有効性を検討した論文である。日常診療において臨床的意義のある論文と考えるが、いくつかの点でさらなる解析が必要である。ループ利尿薬と異なり、トルバプタンは腎機能を悪化させない可能性が高いことから、周術期および中長期における腎機能の経時的変化、入院期間の短縮、術後の生命予後など、さらなる有効性の検討が必要である。近年、高齢者心不全が増加しており、手術を必要とする高齢者が増加してくることから、高齢者での使用の解析も必要である。稀に肝障害を経験することもあり、要注意である。一部の症例で高ナトリウム血症を来すが、どのように血中ナトリウムを補正していくのか、口渇に対してどのようにするのか、あるいは初期投与量の設定をどうするのか、今後のトルバプタンの使用に関しての治療プロトコールの確立が必要であると考え。また、どの程度の腎機能障害症例までトルバプタン治療が可能かなど、今後のさらなる検討が必要である。

論文要旨

2010年12月に心不全に対する新しい治療薬として、バソプレシン V2-受容体拮抗剤であるトルバプタンが使用可能となり、慢性心不全および急性心不全患者に対して多くの有効性が報告されている。開心術後にトルバプタンが有効であった症例報告は散見されるが、まとまった症例数での報告はまだ少ない。今回、我々は2011年8月から2014年6月に施行した開心術後の109症例に対してトルバプタンを使用し、その安全性と有効性について後ろ向きに検討した。トルバプタン投与後の尿量で患者を T1(low responder)、T2(intermediate responder)、T3(high responder)の3群に分けて患者背景、臨床経過、その効果について検討を行った。トルバプタン内服による致命的な合併症は認めなかった。術前の体表面積と術前の体重において3群間で有意差がみられた。他の2群と比較してT3群では術後1日目に体重減少がみられ、血清ナトリウム濃度の上昇が見られた。トルバプタン投与による血圧低下は見られず、心房細動の発生率に関しても3群間で有意差は見られなかった。ただし、著効例ほど高Na血症を来しやすく注意が必要であった。開心術後のトルバプタン投与は循環動態や腎機能を悪化させることなく、安全かつ有効な利尿効果が得られ、開心術後周術期管理において有用な新しい利尿剤であると考えられた。